



# 2024年4月期 決算説明会資料



JQA-QMA16212



MS  
CM009

2024年6月21日  
インスペック株式会社



(証券コード：6656)

inspec Inc.

CL2D PCB

Rev. 2

**第1部 2024年4月期 決算概況**  
**第2部 今後の成長戦略**

An aerial photograph of a modern, single-story building with a light-colored facade. The word "inspec" is visible in blue on the upper left side of the building. A large white banner is superimposed across the middle of the image, containing the text "第1部 2024年4月期 決算概況". The building is surrounded by a paved area and some greenery. In the background, there are other buildings and a dense forest of evergreen trees under a clear sky.

# 第1部 2024年4月期 決算概況

・主に海外向け案件が低迷。中国経済減速の影響を受け、中国向け案件が後ろ倒しにずれ込む  
 →2024年に入り中国景気に下げ止まりの兆しが見られ、中国市場における商談や引き合いが回復傾向

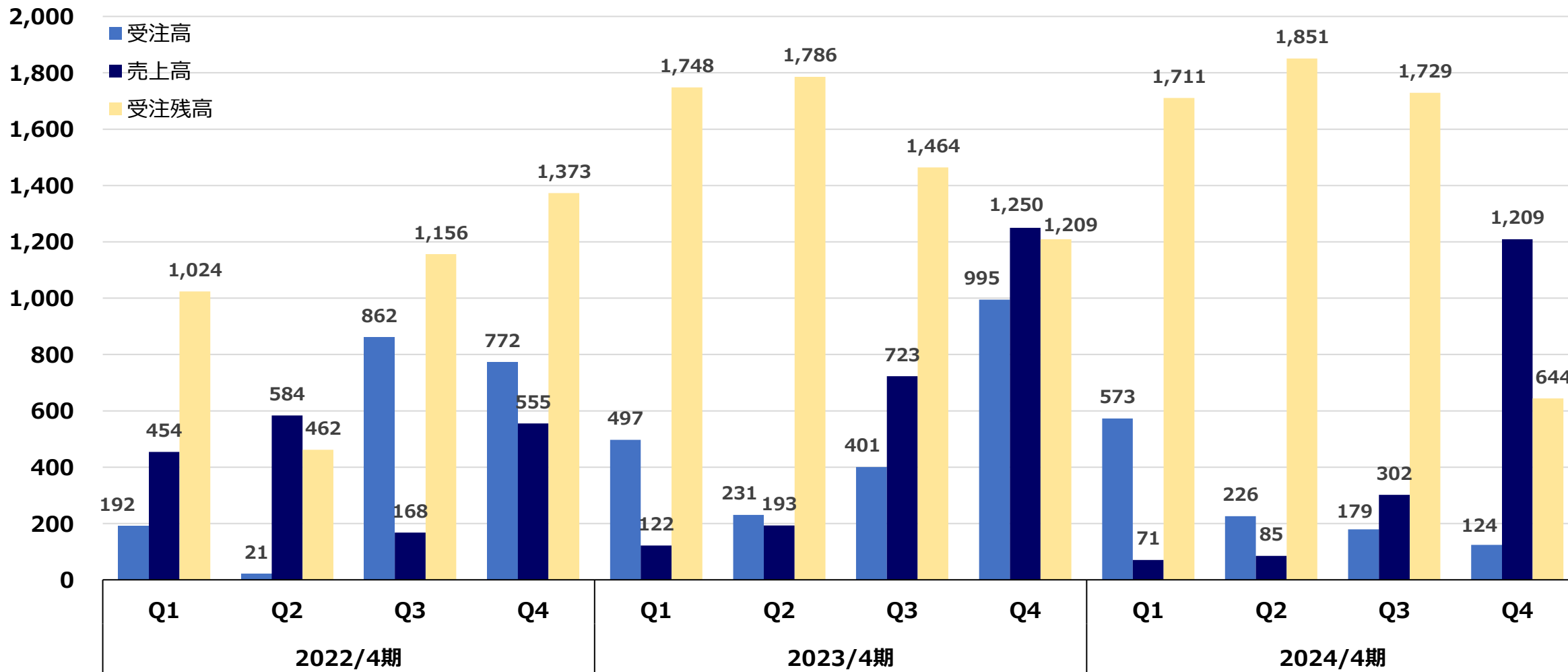
(単位：百万円)

	2024年4月期	2023年4月期	前期比	増減率	2024年4月期 業績修正
売上高	<b>1,668</b>	2,290	△622	△27.2%	1,645
営業利益	△ <b>233</b>	106	△339	—	△230
経常利益	△ <b>263</b>	81	△344	—	△260
当期純利益	△ <b>353</b>	78	△431	—	△360

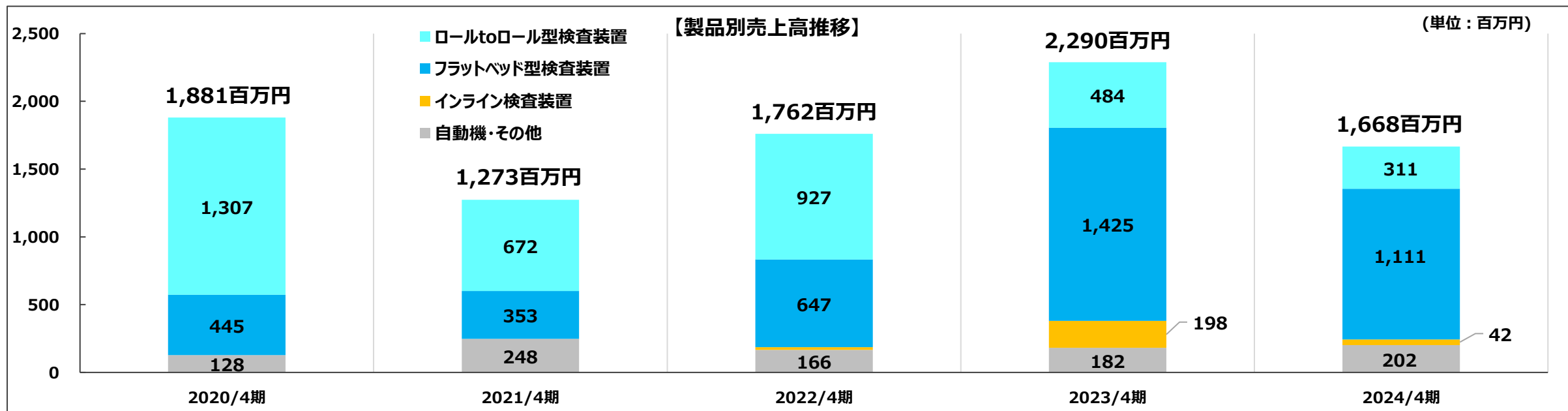
## 四半期毎の推移

(単位：百万円)

Q4受注残高  
：644百万円

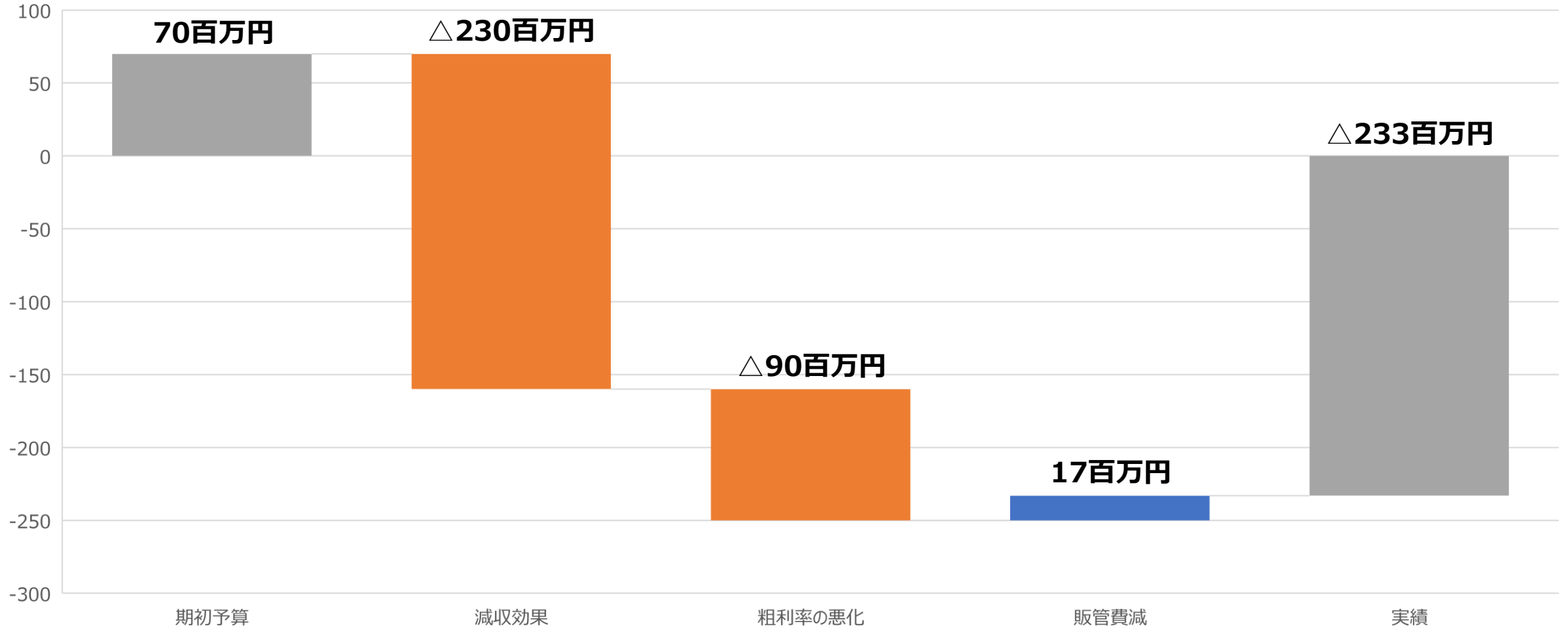


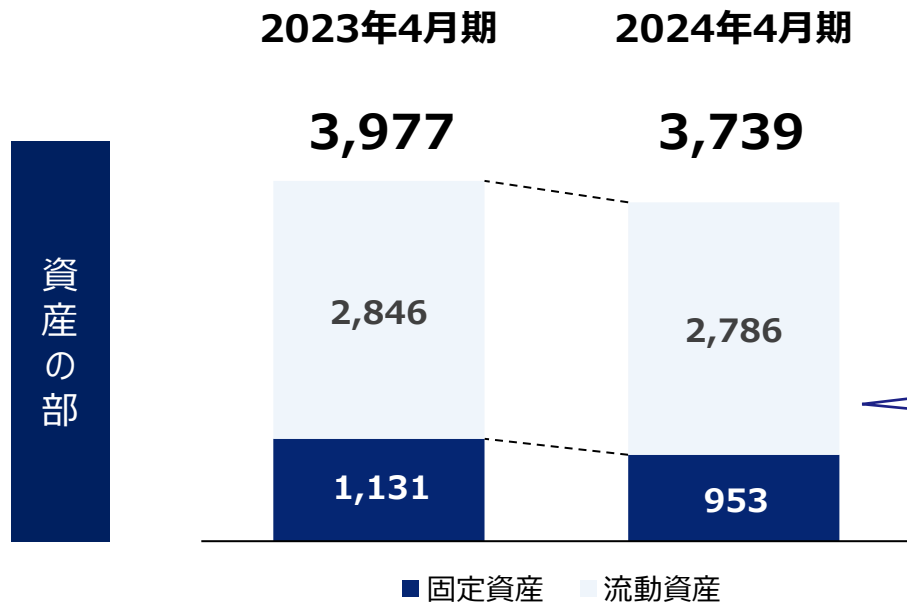
	2024年4月期		2023年4月期		前年同期比 増減率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
売上高合計	1,668	100.0%	2,290	100.0%	△27.2%
■ ロールtoロール型検査装置	311	18.7%	484	21.1%	△35.6%
■ フラットベッド型検査装置	1,111	66.7%	1,425	62.2%	△22.0%
■ インライン検査装置	42	2.5%	198	8.7%	△78.8%
■ 自動機・その他	202	12.1%	182	8.0%	11.1%



## 営業利益の増減要因（予算比）

（単位：百万円）

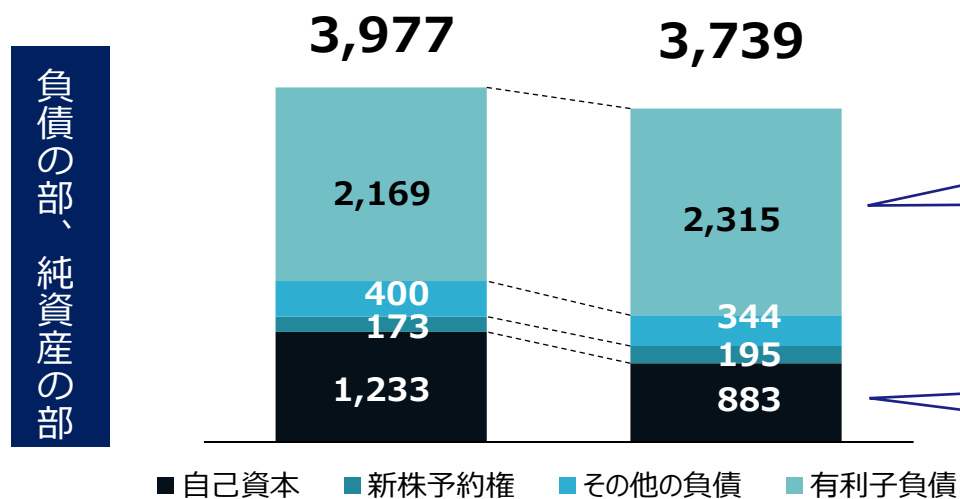




	2023年4月期	2024年4月期
自己資本	1,233百万円	883百万円
自己資本比率	31.0%	23.6%

【主な増減要因】

売上債権：435百万円減少  
仕掛品：241百万円増加



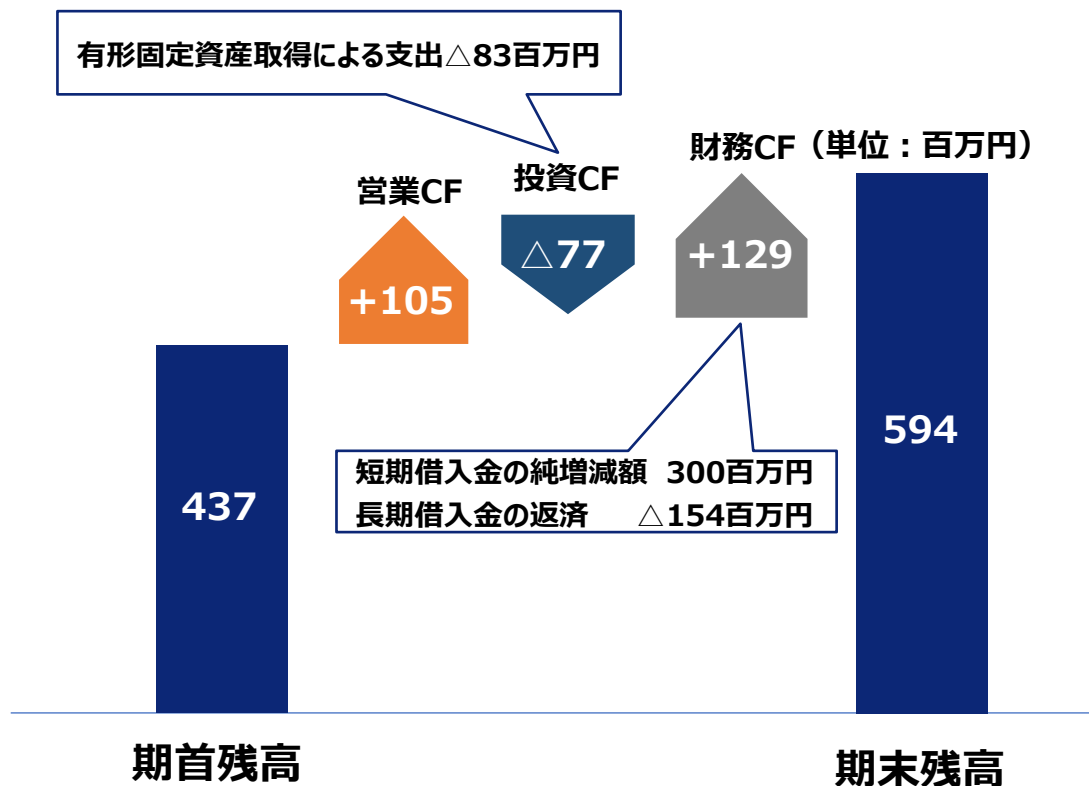
短期借入金：300百万円増加  
長期借入金：154百万円減少

当期純損失の計上：353百万円



(単位：百万円)

## 現金及び現金同等物 157百万円の増加



	2023年4月期	2024年4月期
期首現金及び現金同等物残高	558	437
営業活動によるキャッシュ・フロー	△589	105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△163	△77
フリーキャッシュ・フロー	△752	27
財務活動によるキャッシュ・フロー	630	129
現金及び現金同等に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (減少△)	△121	157
期末現金及び現金同等物残高	437	594

	2024年4月期		2023年4月期		対前年 増減率
	金額（百万円）	対売上比	金額（百万円）	対売上比	
基板検査装置事業	205	12.2%	190	8.2%	8.2%
露光装置事業	219	N/A	95	N/A	130.8%
合 計	425	25.4%	285	12.4%	49.0%

## ■ 基板検査装置事業（半導体パッケージ基板検査装置・FPC検査装置）

- ・次世代及び次々世代の半導体パッケージ基板向けのウルトラファインAOIの開発
- ・リペア装置の開発及び次世代リペア装置の開発（Go-Tech事業）

## ■ 露光装置事業（ロールtoロール型シームレス直描露光装置）

- ・ロールtoロール型シームレス直描露光装置の次世代モデルの開発

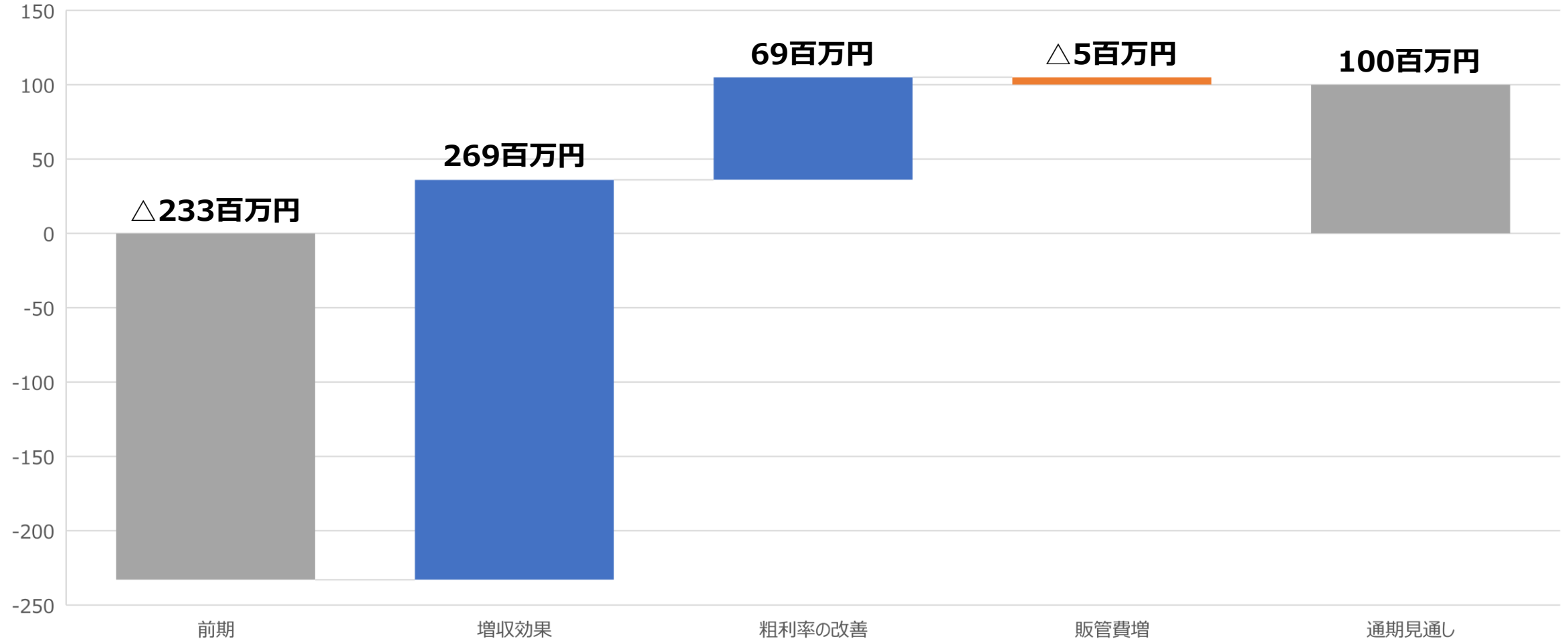
- ・生成AIの普及に伴うサーバー向け需要の増加などにより、半導体市場は緩やかな回復が見込まれる
- ・中国経済の景気減速の中、半導体関連が一足先に抜け出し、中国市場における半導体の緩やかな回復が見込まれる

(単位：百万円)

	公表値	前期実績	増減	増減率
売上高	<b>2,350</b>	<b>1,668</b>	<b>682</b>	<b>40.9%</b>
営業利益	<b>100</b>	<b>△233</b>	<b>333</b>	<b>—</b>
経常利益	<b>100</b>	<b>△263</b>	<b>363</b>	<b>—</b>
当期純利益	<b>80</b>	<b>△353</b>	<b>433</b>	<b>—</b>

## 営業利益の増減要因（前期比）

（単位：百万円）



A 3D bar chart with ten white bars of increasing height from left to right. A thick, light green arrow starts at the base of the first bar and trends upwards and to the right, ending at the top of the tenth bar. The background is a light gray gradient.

## 第2部 今後の成長戦略

**Mission** 変化を先取りし、革新的な製品を生み出す

今日の社会は人類が経験したことのない速さで変化が進んでいます  
私たちはこの変化を見据え、その先のニーズを先取りした優れた製品を提供します

**Vision** 既存事業と新事業による成長の持続と稼ぐ力の向上で企業価値の拡大を図る

2025年4月期～2027年4月期

2028年4月期～2030年4月期

## シン・インスペック2.0

基板検査装置事業

- ・進化が加速する微細化・高機能化への対応
- ・EVを主力としたFPC検査市場へ注力

露光装置事業

- ・車載FPC用シェア拡大
- ・両面同時露光・長尺の強みを生かした販促強化
- ・ハイエンドクラスのスマートフォン市場向けへ進化

新規事業

- ・M&Aを視野に将来性のある第三の柱を検討

- ・台湾、東南アジアへの販促強化

## Vision 2030 GOAL

売上高 100億円

営業利益 20億円

成長

売上高成長率 30%以上

営業利益率 20%以上

稼ぐ力

ROIC 10%以上

ROE 20%以上

## マクロ経済

- ・地政学的リスクの高まり
- ・先進国の少子高齢化による人手不足
- ・新興国の経済成長率拡大
- ・IoT・AIをはじめとするDX推進の加速
- ・自動車産業の技術革新（CASE）
- ・サステナビリティに対する世界的な危機感の高まり  
SDGs・カーボンニュートラル・ESG

## 半導体・FPC市場

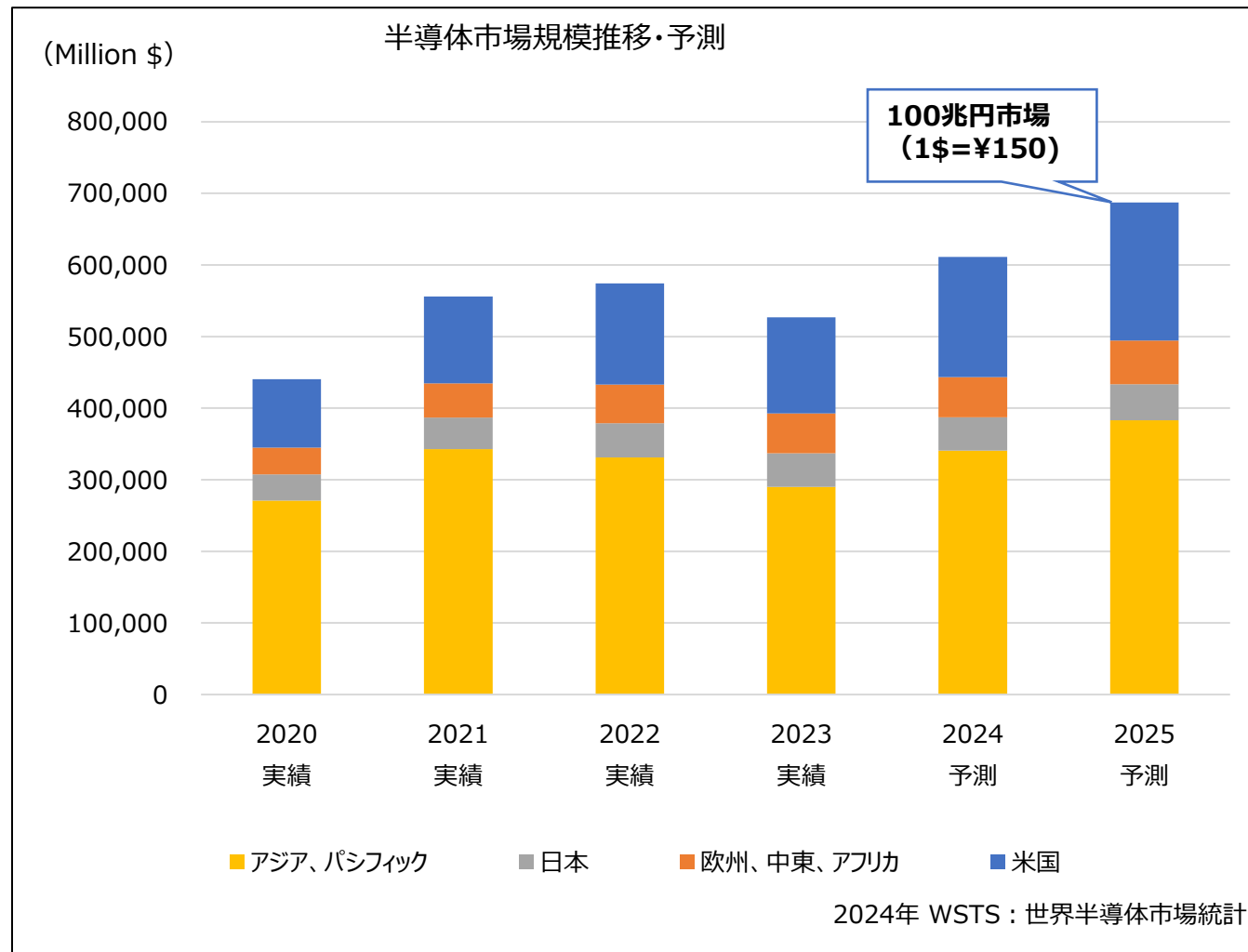
- ・シリコンサイクルからスーパーサイクルへ
- ・EV市場の急速な成長
- ・中国から東南アジアへ半導体市場のシフト
- ・生成AIが牽引する更なる微細化・高密度化
- ・CASE対応への新たな価値創造

## 事業環境

**半導体・FPC市場は、  
今後も高い成長率で拡大**

- ・半導体・FPC検査の高度化対応
- ・FPC生産装置領域へ進出

## 持続的成長と企業価値創造



## ■ 全体市場

- ・電装化が進む自動車市場は非常に好調で同用途向けのデバイス市場も拡大
  - ・スマートフォン市場は、今後も市場の大きな回復は見込めない状況
- (2023年 富士キメラ総研より抜粋)

## 国内プリント基板産業 24年度は下期から回復へ 大型の先行投資を敢行

- ・車載基板を手がける関連企業の業績は堅調に推移する見通し
  - ・パッケージ基板市場も下期以降の回復が期待
  - ・足元の市況は低調だが、関連各社は中長期的な市場の成長を見越して先行投資を敢行
- (2024年 電子デバイス産業新聞より抜粋)



2025年4月期

2026年4月期

2027年4月期

AIサーバーやクラウドコンピューティングの普及を背景に、次世代CPU・GPUなどのハイエンドデバイスにおけるチップレット化で、より高機能化する半導体パッケージングへ対応する検査装置を開発

微細化への対応L/S=1/1 $\mu$ m

ガラス基板等への応用

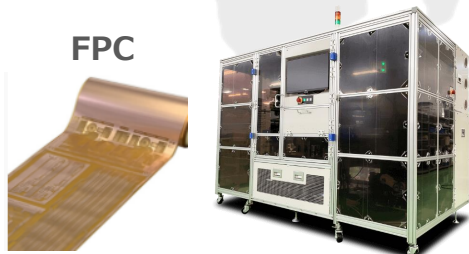
基板パッケージサイズ大型化に対応するスループットの向上



AI機能付両面全自動検査装置  
イメージ図

全自動化システムの更なる進化

世界中で加速するEVの基幹部品であるBMSには、軽量化を目的にFPCの使用が急拡大



ロールtoロール型FPC検査装置  
『RA7400』

FPCをロール状のまま超高速検査を実現した当社の主力製品を更に進化

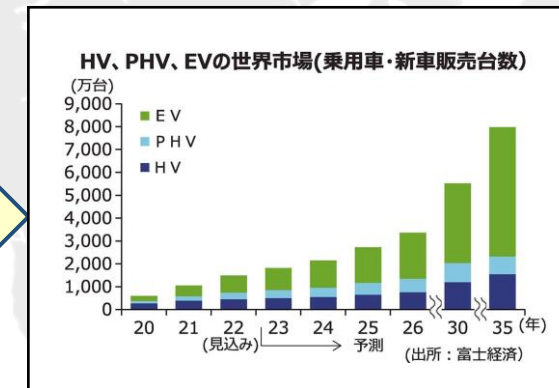
2025年4月期

2026年4月期

2027年4月期

グローバルに成長するEV市場に向け、車載FPC用露光装置のシェアを拡大し、微細化・スループット向上の対応により、多種多様なFPC市場へ進出

EV市場の拡大により車載FPCの需要増



航空宇宙産業、医療等、新たなFPC市場へ

国内直販/中国代理店

東南アジア/北米/欧州へ展開

L/S=50/50 $\mu$ m

微細化への対応 L/S=30/30 $\mu$ m

他波長光源開発によるスループット向上



ロールtoロール型シームレス  
両面同時直描露光装置  
『RD3000FB』

2023年12月8日開示「業績予想の修正並びに剰余金の配当予想（期末配当）に関するお知らせ」に記載の「3. 現在の取り組み状況及び今後の展開について」の現在の進捗状況

## ① 基板検査装置事業

- ・ウルトラファインパターン向けの次世代最先端検査システムの開発に着手

## ② 露光装置事業

- ・全FPC市場をターゲットとしたファインパターン向け露光装置への展開

## ③ 海外拠点強化

- ・台湾事務所を移転し本社役員を常駐、新たな販売網を構築

## ④ タイ・ベトナム地域での販売展開

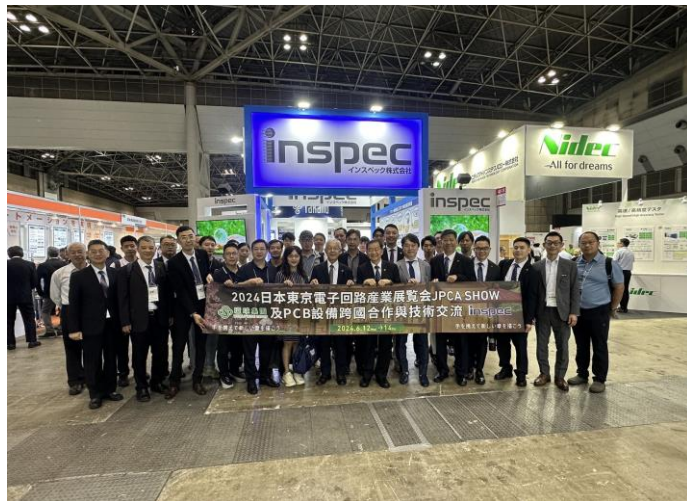
- ・代理店香港WWGと連携し、販売活動開始

## ⑤ 設備投資計画

- ・本社工場・開発オフィスの増築を計画

当社は、国内外の展示会に積極的に出展しており、お客様の新しいニーズに対応したソリューションを提案しております。

- ・2023年11月 : TPCA Show -Taipei- (台湾)
- ・2023年12月 : HKPCA Show 国際電子回路(深圳)展覧会 (中国・深圳)
- ・2024年 1月 : 第38回インターネフコン ジャパン (日本)
- ・2024年 3月 : インテリジェント アジア タイランド 2024 (タイ)
- ・2024年 5月 : CPCA Show 2024 (中国・上海)
- ・2024年 6月 : JPCA Show 2024 (日本)



JPCA Show 2024



インテリジェント アジア タイランド2024



第38回インターネフコン ジャパン

## 基本方針

当社は、パーパスのもと、既存事業と新事業による成長の持続と稼ぐ力の向上で企業価値拡大を図り、「Vision2030」の実現に向けた第一次中期経営計画（2025年4月期～2027年4月期）を策定し、**2027年4月期にROIC 8%以上、ROE 10%以上を目指し、PBR向上を図ります。**

### ■ ROICとROEの推移と予想

	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2025/4期
ROIC	0.6%	2.5%	△5.0%	2.5%
ROE	18.6%	7.3%	△33.4%	8.9%

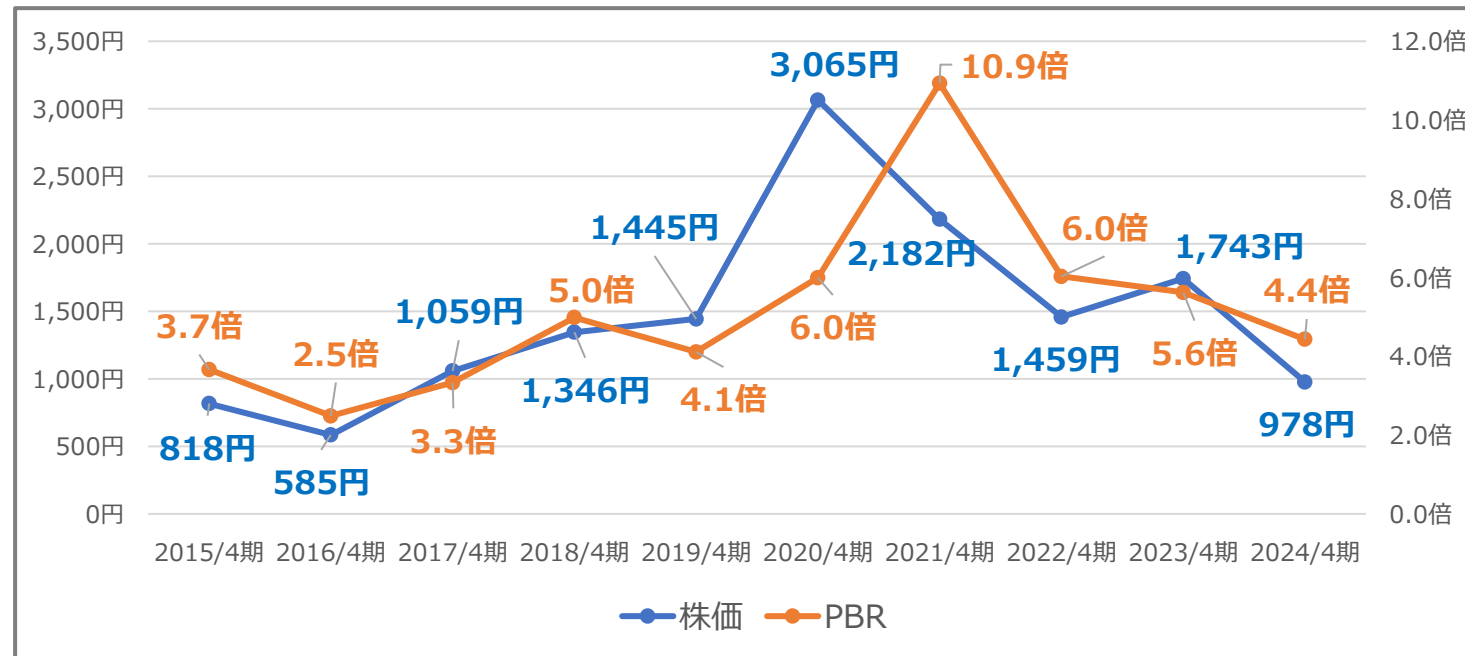
**2027年4月期にROIC 8%以上、ROE 10%以上の実現に向けた取り組み**

- ・中期経営計画の業績目標達成
- ・内部留保バランスを考慮しつつ、財務構造の最適化を図る
- ・株主や投資家とのコミュニケーションの強化

### ■ 配当の推移と予想

	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2025/4期
1株当たり配当	3円	3円	-	3円

### ■ PBRと株価の推移



inspec Inc.

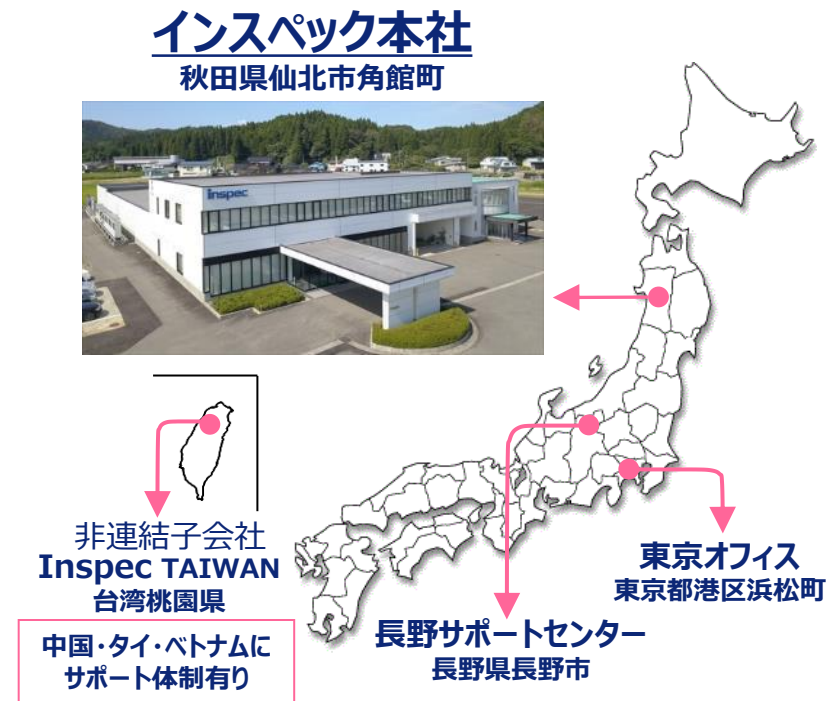
CL2D PCB

Rev.2 No. [redacted]

K-22

# Appendix

商号	インスペック株式会社
本社	秋田県仙北市角館町雲然荒屋敷79-1
創業	1984年（昭和59年）1月
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場
代表者	代表取締役社長 菅原 雅史
主な事業	電子回路基板（半導体パッケージ基板・FPC等）の外観検査装置及び製造装置の開発・製造・販売・サービス
従業員	85名
資本金	810百万円
発行済株式数	4,006,800株（単元株数：100株）
株主数	4,510名



角館の四季

# 確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く

社員が幸せになれる会社、そしてその先の誰もが輝き心豊かに生きることが出来る社会を目指して

## 確かな技術



当社は、検査装置メーカーとして必要とされる**画像処理技術**はもとより、**光学センシング技術**、**制御技術**、**精密機械技術**において、世界トップレベルの技術を磨き上げてきました。また、近年は露光装置を開発する過程で**レーザー技術**を新たに獲得しました。これらの高度な技術を最大限に活かし、インスペックのミッションを推進していきます。

## 切り拓く

**インスペックは自社が持つ技術・ノウハウを駆使して、まだ見ぬ明日へチャレンジし続けます。**

## あくなき挑戦



新しい物を生み出すことへの挑戦、ひたすらロボットを開発しロボットメーカーを目指した挑戦、液晶TFTアレイ検査装置事業を柱とするべく最高性能の装置を開発した、業界のガリバーへの挑戦、いずれもビジネスとして花を咲かせることが出来ずに大きな損失を経験してきました。しかしその経験から多くのことを学ぶとともにかけがえのない技術や数々の得難いノウハウを積み重ね、今日のインスペックがあります。いつのときも、果敢な挑戦が新しい道を開いてきました。「挑戦こそが未来への唯一の扉」です。

## 創造社会



出典：経団連

創造社会とは、「誰もが輝き心豊かに生きることが出来る社会」とあります。創造社会の実現に貢献するためには、何よりも第一にインスペックの社員が幸せにならなければなりません。「社員が幸せになれる会社」への取り組みこそが**創造社会の実現への取り組み**であり、まさにそのことが**インスペックの存在意義**です。



## 1. エレクトロニクスマーケット



### 事業分野

- 半導体分野
- モバイルデバイス分野



### 対応製品

高性能検査装置



### 主要マーケット

- 日本国内
- アジア地域

### キーワード

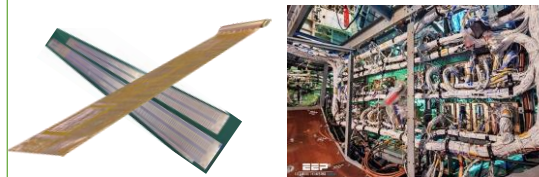
- **5G → 6G**
- **AI**
- **VR・AR・MR**
- **CLOUD**

## 2. モビリティマーケット



### 事業分野

- 車載エレクトロニクス
- 航空機の電子機材



### 主要マーケット

- 欧州
- 北米
- 日本国内、アジア地域

### 対応製品

RtoR型検査、露光装置



### キーワード

- **CASE**
- **カーボンニュートラル**
- **車両軽量化**

## ヨーロッパ地域

自動車・航空機分野



## アジア地域

半導体PKG・エレクトロニクス・自動車分野



- インスペク直轄
- 代理店
- サポート拠点



## 北米地域

自動車・航空機分野



当社は、パーパス「確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く」を通じて、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

### 活力ある職場づくり

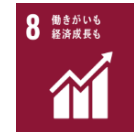
### 交流・能力開発・仕事と生活の調和によって働きがいのある職場づくり



- 支援学校実習受け入れ
- インターンシップ受け入れ



- 女性社員の雇用・活躍の推進
- 出産・育児・介護休暇の取得推進



- 有給休暇取得推進
- 外部研修の実施

### 社会貢献活動

### 地域社会をはじめとした社会貢献活動を推進



- 開発途上国にワクチン提供支援（ペットボトルキャップ・古着回収）
- 社内献血活動



- 角館武家屋敷清掃活動
- 地元災害ボランティアへの登録



- フードロス対策自販機の社内設置
- 社内空調にガスエアコンを使用
- 照明のLEDライト化



- あきたSDGsパートナー登録
- 地元スポーツ団体への協賛

### 技術開発

### 検査装置・露光装置の開発を通じて技術革新に貢献

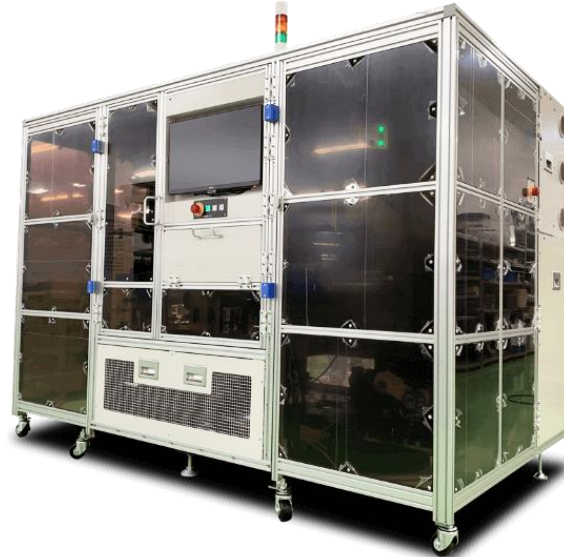


- 検査装置・露光装置による生産性向上への貢献
- 欠陥自動分類技術による人手不足解消への貢献
- 電気自動車等のクリーンエネルギー技術発展への貢献



## 半導体パッケージ基板向けAOI『SX5600』

- インспек基板AOIのフラッグシップモデル
- 最先端の超高精細基板に対応
- クラス最速レベルの生産性を実現



## ロールtoロール型FPC検査装置『RA7400』

- ノンストップで高スループットと長尺対応の実現
- ベリファイレスをサポートする自動分類機能搭載
- コンパクトな外形



## ロールtoロール型シームレス 両面同時直描露光装置『RD3000FB』

- 世界初の両面同時長尺シームレス露光を実現
- 両面同時露光で生産性が2倍
- クラス最小レベルの設置面積

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。  
本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。  
本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。  
本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。